

# 平成31年度行財政方針

## 1.はじめに

平成31年度当初予算案のご審議をお願いするにあたり、私の町政運営に対する考え方を申し述べ、議員各位並びに町民の皆さんのご理解、ご協力とまちづくりにつつましてさらなる積極的なご参加を賜りたいと存じます。

本町が目指す「3000人の楽しい町」を実現するために、私は3つの大きな柱と仕事を進める上での基本的な考え方を就任以来提唱してきております。3つの柱とは、「安全、安心、健康に暮らせる町」、「自己実現ができる町」「未来に夢が描ける町」であり、仕事を進める上での基本的な考え方とは「住民目線」、「当事者意識」、「挑戦」であります。そして、若手職員による「3000人の楽しい町」プロジェクトチームの活動や、新庁舎整備や奥大山スキー場の指定管理、各種事業の見直し等、重要案件についての住民説明会の開催等を通じて、住民の皆さんに対する情報提供に努め、これからの江府町を一緒に考えていこうという機運を高めてまいりました。

## 2. 集落総合点検事業を振り返って

2年間にわたる集落総合点検事業では、多くの要望やご意見、提案、ご質問をいただきました。すぐに回答や対応できるものには、すでに

対応をしたところです。特に、建設課関係事業につきましては、66件の要望のうち半分近くを処理いたしました。

多くの町民の皆さんが不安に思っておられるのは、高齢化が進み移動手段の確保や、買い物などの生活サービスの確保、農地や集落の維持管理を行う担い手の確保でした。また、平成30年は7月の豪雨や9月の台風24号等、異常気象による災害が47カ所と多く発生したことから、災害への対応についても多くのご意見をいただきました。今後は、残りの17カ所を早急に補助災害で復旧してまいります。

### 3 課題解決のための基本的な考え方

移動手段の確保や買い物などの生活サービスの確保、災害への対応については、それぞれ平成31年度当初予算案の中に、具体的な事業を盛り込んでいます。ただ、担い手の確保という大きな課題については、町全体が一丸となって、若年層の人口を増やすことに取り組まなければなりません。

私は、若年層の人口を増やすためには、未来志向のまちづくりをする必要があると考えます。まず、最初に、現在江府町に住んでいる子どもたちに、将来江府町に帰って来て、江府町を担う人材になってもらうような、郷土愛を持たせる教育をすること。そして、現在町外に出ている人たちに、帰って来ようという気持ちになってもらうこと。そのためには、江府町はいいところだということを、住んでいる人が子どもや孫たちに言い続けること。自信と誇りを持って言えるように、解消すべき課題は解消しながら魅力となるところを磨くこと。そして、

魅力を最大限に発信することだと思います。江府町で頑張ろうという人をみんなで応援し、活躍してもらおう。江府町がそういう町だということがわかれば、多くの若者が江府町に興味を持ち、訪れ、その中には定住する人もあるでしょう。彼らの発想や能力で課題を解決してくれることでしょう。現代は、高度成長、大量生産の時代と違い、自らの存在を認めてくれる地域が潜在的に求められていると思います。人口が流出するのは、居住する必然性を見出せないためであり、雇用機会の不足はその一つに過ぎないと思います。

#### 4 平成 31 年度の特徴的な事業（江府町未来計画に沿って）

##### 一 子どもが健やかで子育てが楽しいまち

一人ひとりの子どもを大切にし、しっかりと配慮した保育や教育を行います。そして、保育料の無償化、在宅育児手当、放課後や夏休み冬休みの子ども教室、江府いもこ塾等、保護者のみなさんの負担を軽減する事業を引き続き実施します。また、ふるさとを愛し、地域のことを考えることができ、これからの時代に立ち向かっていける子どもを育てるため、アントレプレナーシップスクールや中学生議会を充実させていきます。併せて、サントリーの協力のもと、奥大山に誇りや愛着を持つ子どもたちを育成するよう努めます。さらに、日野郡三町で連携しながら、高校生に対する「ふるさと教育」の仕組みを検討します。

## 二 楽しく年をとれるまち

集落総合点検でも多くの意見をいただいた、買い物福祉サービスを継続します。地域力創造アドバイザーの助言も受けながら、えんちゃんの実業継続ができるよう支援します。総合健康福祉センターについては、従来からの要望に対応できるよう、土足で2階に上がれるように改修を行います。旧俣野小学校を地域医療人材育成拠点、診療所機能と併せ、俣野地区の住民生活を包括的にケアする拠点とします。また、町民の命と健康を守る江尾診療所について、今後も持続していく方向性を見出すため、現状の経営分析を行います。また、平成31年度は民生委員の改選期でもあります。地域福祉計画の策定を行いながら、町と社会福祉協議会との役割分担も明確にしていきます。

## 三 みんなで考え一人ひとりが輝くまち

町政の重要事項については、従来どおり住民説明会を行うとともに、集落からの要望に応じて、集落に出向いて意見交換会を実施します。加えて、子育て支援センターや小学校のPTAの会合等、子育て世代の皆さんの声を伺う機会を作ります。積極的な情報提供を行い、住民の皆さんとともに考えるよう努めます。地域活性化支援事業、公民館講座、明德学園等により住民のみなさんの自主的な活動を支援していきます。

## 四 産業で活力とにぎわいを生み出すまち

江府町の産業を元気にする際のキーワードは「奥大山」だと思います。観光では、木谷沢溪流遊歩道の整備や、ツアーガイドを行う地域おこし協力隊員の募集、江府町観光協会との連携を重点に取り組んでいきます。また、農業においても「奥大山プレミアム特別栽培米」の評価が全国的に高く、「奥大山ソバ」も近年生産量が拡大してまいりました。道の駅「奥大山」を物販、飲食、情報発信の拠点としながら、江府町産の農産物の魅力をさらに磨いていきます。平成27年度から新甘泉栽培にも取り組んでおりますが、来年度は有害鳥獣ジビエ解体処理施設の設置により、新たな特産品が生まれることも期待しています。また、好評をいただいておりますプレミアム商品券発行事業については継続事業として行います。

## 五 住んでみたくなるまち、帰って来たくなるまち

町営バスの運行をきめ細かくします。具体的には、10人乗りの車両を使用して、町内6路線を週1回1日3往復の運行をいたします。タクシー利用助成を継続しながら、将来に向けての町内の移動手段の検討を進めます。水道の安定供給を目指した「江尾地区配水管敷設替」や、川筋地区の公共下水道への統合整備事業を着実に推進します。また、空家対策総合支援事業を活用し、移住定住促進住宅を1棟整備します。また、きめ細かな移住定住相談や空き家バンクの管理等については、希望者のニーズに柔軟かつ迅速に対応できるNPOこうふのたよりに引き続き委託します。また、利用者の利便性と、江府町の玄関口の魅力を向上させるため、ちろりんハウスのトイレを改修します。

## 六 災害に強いまち

平成25年に策定され、江府町全体の防災対策を定めた江府町地域防災計画を、現状を踏まえ、より実効性の高い計画とするための改定を行います。災害が発生したり、発生が見込まれる場合、的確に避難及び災害情報を伝えるとともに、避難場所が理解しやすいよう避難所には、災害避難所明示看板設置を行います。また、現在のアナログの防災無線からデジタル防災無線への移行に向け、平成31年度に設計を行い、平成32年度に設備導入いたします。

## 七 協働でしっかりと計画的に進むまち

役場新庁舎を着実に建設することと併せて、町全体の公共施設のあり方について、将来を見据えた検討を行います。奥大山スキー場については、指定管理者を本年度中に決定することができませんでしたので、町外にも範囲を広げ、指定管理者を再度募集することとします。

事務事業の見直しについては、仕事のやり方も含めた検証を徹底的に行います。職員研修の充実による職員のスキルアップを進め、行政サービスの向上に務めます。支え合いがしっかりとできる町となるよう、集落総合点検でいただいた意見を受け、緊急度、必要性を検証しながら、町民の皆さまと力を合わせて取り組んでまいります。続きまして、新年度予算の概略について述べさせていただきます。平成31年度一般会計歳入歳出予算総額は、39億9,300万円です。

別途特別会計といたしましては、12会計 歳入歳出予算総額13億6,472万5千円、一般会計と合わせますと53億5,772万5千円となります。

公営企業会計は2会計で簡易水道事業会計は、収入1億5,571万6千円、支出2億1,140万8千円、下水道等事業会計は、収入3億1,919万8千円、支出3億9,776万9千円であります。

以上、平成31年度一般会計並びに特別会計、公営企業会計について当初予算15議案を提案し、関係条例の一部改正をはじめ、平成30年度各会計補正予算など28議案の提案については、各課長の説明をもって提案とさせていただきます。